

安全データシート

重機専用燃料 SAB (サブ)

会社名 サン石油 株式会社
所在地 横浜市神奈川区沢渡 6 番地
担当部門 企画開発部
TEL 045 (311) 7763
FAX 045 (317) 8678
緊急連絡先 045 (311) 7763
作成・改正 平成 12 年 4 月 1 日 平成 13 年 4 月 1 日
追加・改正 平成 14 年 4 月 1 日 平成 15 年 5 月 30 日
平成 19 年 7 月 1 日

整理番号 190761

製品名 重機専用燃料
SAB (通称呼称名サブ)
SAB/colored annex
ハイパワー重機用燃料
低公害低排気ガス重機燃料
軽油・A重油使用産業用ディーゼル機械専用燃料

主用途

重機専用燃料/公道走行車輛及びナンバー付車輛・重機等使用禁止

物質の特定

単一製品・混合物の区分 単一製品
石油系炭化水素
成分及び含有量 主に C₈~C₂₆ の範囲の石油系炭化水素及び添加剤 (colored annex)
化学式・構造式 特定できない。C₈H₁₈~C₂₆H₅₄
官報公示整理番号 9-1700 (化審法) に準じる。
12-137 (安衛法) を適用
CAS No 64742-79-6
国連分類/国連番号 引火点 61.0°C以下: クラス 3 / 1202
引火点 61.5°C以上: 該当なし/該当なし
労働安全衛生法 S A B : 灯油ベース 90 wt%

P R T R 法*

指定化学物質名	指定化学物質の別	政令番号	含有量
			平均値(質量%)
キシレン	第 1 種指定化学物質	80	1.0

(* 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)

なお、P R T R 法を化学物質管理促進法と記載してもよい。

危険有害性の分類

分類の名称 分類基準に該当なし。
危険性 可燃性の有機混合液体
有害性 飲込むと有害で生命の危険を及ぼす恐れがある。
高濃度蒸気は、吐き気、頭痛、目眩を生じる恐れがある。
環境影響 現時点では、有用な情報なし。軽油や他の重機燃料に比べ、
環境汚染 (排ガスが少量) 程度が極めて低い。

東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の環境に関する条例の性状分析をクリア

平成 15 年度排ガス規制クリア

応急処置

目に入った場合	清浄な水で最低 15 分間、眼を洗浄した後、医師に受診する。
皮膚に付着した場合	水と中性洗剤で付着した部分を十分に洗浄する。
飲み込んだ場合	無理に嘔吐させないで、医師の手当を受ける。 口の中が汚染されている場合は、水で充分洗う。
吸入した場合	新鮮な空気の場合に移動する。 体を毛布等で覆い保温して安静を保ち、直ちに医師の手当を受ける。 呼吸が停止した場合及び呼吸が低下し弱い場合は、衣類を緩め呼吸 気道を確保した上で、人工呼吸をおこなう。

火災時の措置

消火方法	初期の火災には、粉末・炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気遮断をすることが有効である。棒状水は火災を拡大し危険な場合がある。 高温の金属表面等に接触したり、燃料管から漏洩した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。 周囲の設備機器等に散水して冷却する。 消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火剤	霧状の強化液・粉末・炭酸ガス・泡が有効である。
危険な燃焼生成物	燃焼の際、煙・一酸化酸素等が生成されるが、軽油使用に比べ極微量である。

漏出時の処置

全ての着火源を速やかに取除き、漏洩箇所の漏れを止める。
危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺にはロープを張り、人の出入りを禁止する。
消火用機材を準備する。作業では消火用保護具を着用する。
少量の場合は、土・砂・おがくず・ウエス等に吸収させ回収する。
大量の場合は、盛土で囲い流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。
室内で漏出した場合は、窓・ドアを開け十分な換気をする。
海上の場合はオイルフェンスを展開して、拡散を防止し吸着マット等吸い取る。
薬剤を用いる場合には、運輸省令で定める技術上の基準に適合したものをを用いる。
漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報連絡する。

取扱及び保管上の注意

取扱	指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定める基準に満足する製造所・貯蔵所・取扱所で行う。 第4類第2石油類の指定量は1000ℓ以下で、その1/5以下は無届保管が可能(1D/Mまで) 新SABは、第2石油類として扱う。 炎・火花・高温体との接触を避けるとともに、周りに蒸気を発散させない。 静電気対策を行い作業衣・靴等も導電性の物を用いる。 口で油等を吸上げる行為等はしない。 皮膚に触れたり眼に入る可能性のある場合、保護具を着用する。 室内で取扱う場合は、十分な換気を行う。換気装置をつける場合は防爆タイプを設置する。
保管	容器を転倒させたり、衝撃を与える等の粗暴な取扱はしない。 冷暗所で、換気の良い場所に保管する。 危険物の表示をして保管する。 熱・スパーク・火災並びに静電気蓄積を避ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類はアースする。 ハロゲン類・強酸類・アルカリ類・酸化性物質との接触並びに同一場所の保管を避ける。
容器の取扱	一度栓を開けた容器は、必ず密栓しておく。 空容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。 容器は溶接・加熱・穴開け・切断はしない。爆発を伴ない残留物が発火することがある。

暴露防止措置

管理濃度	特に規定なし。(第2石油類に準じる)
許容濃度	
日本産業衛生学会	3mg/m ³ (鉱油ミストとして)
ACGIH	5mg/m ³ (鉱油ミストとして)
設備対策	屋内作業所は、防爆タイプの排気装置を設備する。 取扱場所の近辺に、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
保護具	必要に応じて保護眼鏡・対油性保護手袋・保護衣・呼吸用保護具等を使用する。

物理化学的性質

外観等	透明な淡緑色
沸点	150℃以上
蒸気圧	1kpa 以下 (0.001kgf/cm ² 以下)
揮発性	なし
流動点	-20℃以下
密度 (15℃ g/cm ³)	0.8000~0.8015
IBP	150℃以上
EBP	400℃以下
10%残油中残留炭素分	0.01~0.10
溶解度/水	不溶
蒸気密度/空気=1	5以上

危険性情報（安定性・反応性）

引火点	40～80℃
発火点	約 240℃
爆発限界	7V/V%（上限）～1V/V%（じょう下限）
発火性	
自然発火・水反応性）	なし
可燃性	あり
酸化性	なし
自己反応性	なし
安定性	安定
反応性	強酸化剤・強アルカリは避ける

有害性情報

皮膚腐食性	現在のところ有用な情報はない。
刺激性（皮膚・目）	液は、眼に対して軽度の刺激性ある。
感作性	有用な情報なし。
急性毒性	経口 マウス LD ₅₀ 5.00g/kg 経皮 ラット LD ₅₀ 3.16g/kg 高濃度の蒸気を吸入すると、頭痛・目眩・倦怠感の症状を起こす。 甘い香りがするため、蜜を求める蜂等が近づく。
亜急性毒性	有用な情報なし。
慢性毒性	液との長時間又は繰返しの接触は、皮膚の脱脂作用により皮膚刺激 皮膚炎等を起こすことがある。
癌原性	沸点 175～370℃の炭化水素系燃料について、A P I（米国石油協会）と米国の石油会社が実施した動物実験（皮膚塗布テスト）の結果では、マウスの皮膚に対して軽度、潜伏期間の長い腫瘍や癌の発生が認められた。人体の影響に対する因果関係は不明である。
変異原生	有用な情報なし。
生殖毒性	有用な情報なし。
催奇形性	有用な情報なし。
その他	誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し嘔吐・胃痛・下痢等の症状を起こすことがある。誤飲し肺に吸入されると、肺組織の内出血・肺水腫・化学性肺炎を起こすことがある。

環境影響情報

分解性・蓄積性・魚毒性 有用な情報なし。

廃棄上の注意

燃焼する場合は安全な場所で、かつ燃焼や爆発によって他に危害・損害を及ぼす恐れのない方法で行うこと。見張りを付ける。自治体の指示に従う。廃棄する場合は、特別産業廃棄物として関係法令（廃掃法・消防法）等に従って廃棄処理すること。特管物処理業者に委託処理する。その他関係法令の定めることに従う。

輸送上の注意

運搬容器に、品名・数量・危険物等級・火気厳禁の表示をする。指定数量以上を運搬する車両には【危】の標識を車両前後に表示し、消火設備を備える。道路運搬時の積重ねは3m以下とする。危険物第1種・6種との混載を禁止する。輸送容器は、危険物の規則に関する法令に定めた物を使用する。その他関係法令に従う。

適用法令

化審法／消防法危険物第4種第2・3石油類／労働安全衛生法／船舶安全法／航空法／港則法／道路運送車両法／海洋汚染防止法／下水道法／水質汚濁防止法／廃掃法／
化学物質管理促進法（PRT法・平成11年7月制定）
安全データシート（MSDS）配布義務付け（平成13年1月1日）

追伸

安全データシートは安全な取扱を確保する為の参考情報であり、個々の取扱等の実態に応じた適切な処置を講ずることの活用参考資料であり、安全の保証書ではありません。